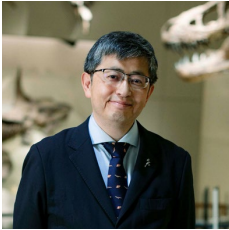


絶滅するってどういうこと？ 恐竜や絶滅動物から考えよう

プロナビゲーター紹介



国立科学博物館・古生物学者
真鍋真 (まなべ先生)

東京生まれ東京育ち。海や山に憧れ「地理や地学の研究をするようになったら、世界中を旅することが出来るのではないか」と、横浜国立大学教育学部地学科に進学。

カナダに1年間留学して、サイエンスには国境がないことを実感。そのころ急展開していた恐竜の勉強をしたいと、大学院修士課程ではアメリカに、博士課程ではイギリスに。博士号取得後は、国立科学博物館に勤務。

ワークの概要

普段の暮らしでは想像ができない「生物が絶滅する」ということを、国立科学博物館の真鍋真先生といっしょに恐竜の化石や絶滅した動物の話を通して考えます。みんなで、与えられた情報から類推し、考えを出し合い、視点や思考の柔軟性を広げた先に、地球環境や身の回りの自然の捉え方が深まるプログラムです。



プログラム内容

第1回

【タイトル】 骨格から生きていた姿を考えよう

【概要】 「骨格シート」を使い、化石の恐竜の姿を想像して再現する。そのうえで、恐竜学者が考える正解を聞くことで情報から類推することを学ぶ。

第2回

【タイトル】 類推するって、どういうこと？

【概要】 3つの類推クイズを通して、第1回に引き続いて「類推する」ことを深める。また、個人ではなく、チームで考えをすり合わせることを学ぶ。

第3回

【タイトル】 進化・退化と絶滅

【概要】 「恐竜がもし生きていたら？」という絵を描くことで想像力を広げる。現在に恐竜が生きているとしたら一つの仮説として、ラッセルの『恐竜人間』を紹介。進化と退化、絶滅と生存についての考えを深める。

第4回

【タイトル】 生き物が絶滅すると、どうなるのだろう？

【概要】 もしもミツバチがこの世にいなかったら？という問いから、絶滅を身近に引き寄せて考えを深めていく。第1回で作成した恐竜の絵から、現代社会へのメッセージを考える。